

O4-4 人工股関節全置換術後の WOMAC の改善に影響する術前因子について

○渡邊 健斗(わたなべ けんと)¹⁾, 中谷 亮誠¹⁾, 岡村 亮汰¹⁾, 米村 優一¹⁾, 林野 真帆¹⁾,
海部 祐史¹⁾, 三木 大輔¹⁾, 桐月 伸輔²⁾, 津村 暢宏²⁾
1)石川病院 リハビリテーション部, 2)石川病院 人工関節センター

Key word : 人工股関節全置換術, WOMAC, 術前因子

【目的】 高齢化に伴い人工股関節全置換術 (THA) が増加しており、さらなる治療効果が期待されている。THA の治療効果判定は健康関連 Quality of life の指標として WOMAC が多く使用されている。WOMAC は術後の数値だけでなく、術前から術後の改善値が患者満足度に影響すると考えられる。しかし、改善値に着目した研究は少ない。また、術後の治療成績に影響する術前因子を把握する事は、手術を控えた患者への予後提示や術後の治療に重要である。本研究の目的は、THA 術後の WOMAC-F の改善値に影響する術前因子を調べることとした。

【方法】 包括基準は2016年9月から2018年3月までに、当院にて THA を施行されたものとした。除外基準は、認知機能の低下があるもの、当院のクリティカルパスにおいてバリエーションが生じたもの、術後3週目の評価項目に欠損があるものとした。評価項目は、術前に年齢、安静時疼痛 (NRS)、歩行時疼痛 (NRS)、Timed Up & Go Test (TUG)、6分間歩行距離、Pain Self-Efficacy Questionnaire (PSEQ)、日本語版 Western Ontario and McMaster Osteoarthritis Index の身体機能評価 (WOMAC-F、17Best-85Worst) を、術後3週に WOMAC-F とした。

統計解析は WOMAC-F の術後の改善量に影響を及ぼす術前因子を調べるために、重回帰分析 (ステップワイズ法) を行った。従属変数を術前から術後3週目の WOMAC-F の改善値とし、独立変数を術前の年齢、安静時疼痛 (NRS)、歩行時疼痛 (NRS)、TUG、6分間歩行距離、PSEQ、WOMAC-F とした。

統計処理には EZR version1.27 を使用し有意水準は5% とした。

【説明と同意】 ヘルシンキ宣言にも基づき、研究内容や参加について対象者へ口頭にて説明を行い、同意を得た。

【結果】 対象者は、除外基準の2例を除いた37例 (年齢65 ± 11、女性31名、男性6名) であった。重回帰分析の結果、有意な術後因子として抽出されたものは TUG ($p=0.004$, $\beta=-1.24$)、WOMAC-F ($p=0.001$, $\beta=0.83$) であった。自由度調整済み決定係数 (R^2) は0.61 であった。

【考察】 術後の WOMAC-F の改善値に影響する術前因子として、TUG と WOMAC-F が抽出された。術前の TUG が速く WOMAC-F が悪いほど、術後の WOMAC-F は改善

値が大きくなる。術前 WOMAC-F が悪いほど、それだけ改善の余地が大きいため、術後 WOMAC-F の改善値が大きくなったと考えられる。これらの知見から、術前因子を把握することにより、術後3週目の WOMAC-F の改善値が予測可能となる。また、予後予測ができることにより、患者教育を通した予後提示が可能となる。TUG を術前から改善させることで WOMAC-F の改善値が大きくなる可能性がある。**【理学療法研究としての意義】** 術前因子より WOMAC-F の改善値の予後予測が可能である。また、患者教育を通した予後提供が治療成績向上の一助となる可能性がある。